

耕畜連携で良質な堆肥づくり

～養鶏業のみどり戦略～

【アニマルウェルフェア】

今回は大分県日出町の「(有)鈴木養鶏場」を訪問取材した内容を紹介します。

同社では、約15万羽の成鶏と約2万5千羽の雛を飼養しており、卵や、卵を使ったスイーツの販売も行っています。

アニマルウェルフェアに配慮した、鶏にとって快適な居住環境づくりを行っており、鶏舎での鶏1羽あたりの居住面積は800 c㎡と通常の約2倍の広さで、十分な産卵用スペースやエサ・水飲み場を整備し、鶏がストレスなく快適に過ごせる環境を整えています。

鶏のエサには、契約農家の水田でつくられた米が20～30%配合されており、快適な環境と栄養価の高いエサが、食べやすくマイルドな食感の卵に繋がっているとのこと。



〔アニマルウェルフェアに配慮した鶏舎〕



〔卵やスイーツなど〕



〔飼料用米〕

【良質な堆肥づくり】

同社では、鶏舎から集めた鶏ふんを密閉式のコンポスト内で約1週間発酵させた後、約2か月間ロータリー攪拌を行います。

発酵が進むと、放出される熱により堆肥の温度は約80℃まで上がり、鶏ふん独特の臭いを軽減させるほか、雑草の種子も不活性化されます。

さらに、ストックヤードで約半年間完熟させ、成分の安定したさらさらの堆肥が出来上がります。



〔堆肥製造施設〕



〔堆肥ペレット〕

【耕畜連携と散布作業の効率化】

この堆肥は、水田や畑などで肥料として使われ、つくられた米が鶏のエサになるという「耕畜連携」の形が構築されています。

また、肥料メーカーにも供給し、良質な堆肥を用いた新たな肥料の貴重な原料になっています。

同社はさらに、堆肥散布車を導入し、重労働である農地での堆肥散布作業を支援しているほか、散布しやすい鶏ふんペレットも製造しています。

良質な堆肥づくりと散布作業の効率化の取組により、「みどりの食料システム戦略」が目指す化学肥料の使用量低減に貢献しています。



〔堆肥散布車〕



〔ペレットマシン〕